



古文書に見る「聖なる菩提樹」の歴史（後編）

長嶺胃腸科内科外科医院  
長嶺 信夫

5. 現在のブッダガヤの菩提樹の由来

現在ブッダガヤに生えている菩提樹が何時、どのようにして植えられたか興味をもたれるが、現在生えている菩提樹の先代の樹についてカニンガムの貴重な記録がある。

それによると、「1862年12月にこの樹を発見した時、樹は非常に弱っていて、3本の枝をつけた西方に伸びている1本の大きな幹がまだ緑で、残りの枝は樹皮がはげ、朽ちていた。次に樹を見たのは、1871年と1875年であるがその時、樹は完全に弱っていて、その少し後の1876年の嵐によって唯一残っていた樹の部分も西側の壁の上に倒れてしまった。そして古の菩提樹は枯れてしまった。だが、沢山の種が採取され、若い子孫 (young scions と複数形になっている) がすでにその場所に生えていた。」と。

ところで、「現在生えている菩提樹がそこに生えていた幼木が大きく育ったものか？」と問われると困ってしまう。なぜなら、カニンガムが

発掘調査した時、大菩提寺は長い年月の間に、損壊だけでなく、修復、あるいは破壊を避けるためであろうと考えられる造作が加えられていた。一例をあげれば、大塔の西側すなわち菩提樹側は、32フィート (9.6メートル) の長さで、高さ30フィート (9メートル)、厚さ14フィート (4.2メートル) の巨大な壁で覆われていた。発掘が進むにつれて分かったことだが、大塔の菩提樹側の壁には如来像を中心に13箇の仏像を安置している龕 (がん) があるのだが、両端の各々2箇所をのぞいて全て巨大な壁で覆い隠されていたのである。発掘調査はこれらの壁を取り除きながら、あるいは土を掘り起こしながら進められており、発掘調査時の写真をみると瓦礫の山である (写真3)。それ故、別の場所にも時的にも移植させなければ、この場所で幼木が生き残ったとは考えられない。

このことに関して、T.C マジュプリア著 (西岡直樹訳) 「ネパール・インドの聖なる植物」では、「現在のもの (菩提樹) は1885年に植えられたものだと伝えられている。」と記載し、今年 (2007年) 訪問した京都府立植物園に植えられている菩提樹も「当時現地で植えられていたインドボダイジュは枯れてしまい、現在のものは1885年植え替えられたものです。本個体は、1885年に植えられたインドボダイジュからの実生を育てたものです。」と記載されて

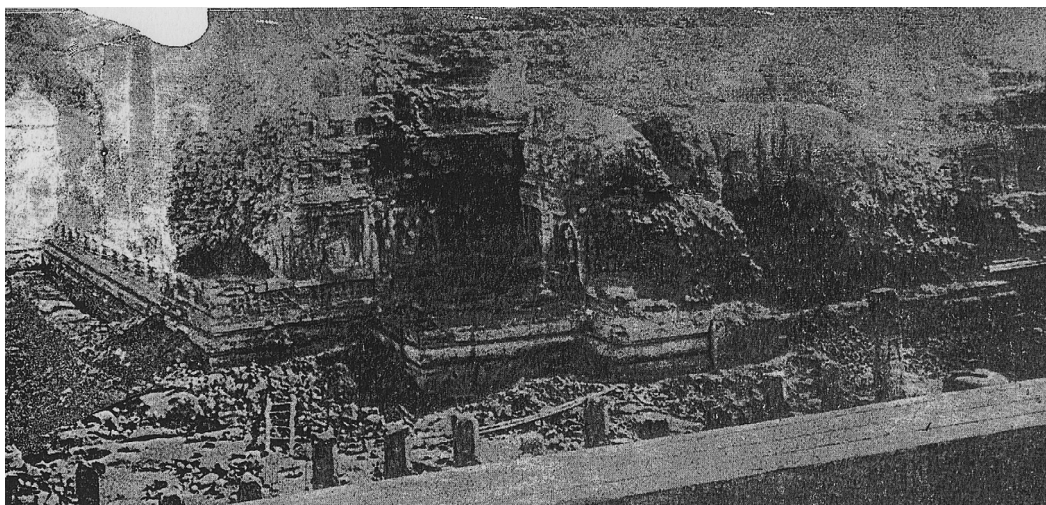


写真3. カニンガムによる大菩提寺発掘調査時の大塔西側 (菩提樹側) の写真。壁面の大部分が厚い壁でおおわれている。調査にともない付加建造物が一部除去されている。写真の右側壁面の大きなくぼみが菩提樹の場所と考えられる。菩提樹は不明。カニンガムの発掘調査報告書、文献5より転載。

いた。また、中村元編著「新編ブッダの世界」には「現在の樹は1876年に嵐のために倒れた古木の根から芽をふいたものである。」と記載し、正法寺のホームページに載っている「フォートギャラリー・天竺紀行」の記述でも、現在の菩提樹は、“1876年嵐でたおれた古木の根から芽をだしたもの”と記述している。

菩提樹が枯れた時期や植樹した時期の記載に1874年、1876年、1885年など異なった年代になっているのは、カニンガムらによる膨大な発掘調査が終了し、構内が整備された時、現在地に「古木の根から生じた幼木」または「近くに生えていた幼木」が移植されたためではなかろうかと筆者は考えている。一方「現在の菩提樹はスリランカのアヌラダプラからの分け樹を移植したものである（2003年4月放送：世界・ふしぎ発見、スリランカ編）」との報告もある。

現時点では、これらの報告の内どちらが正しいか、判断するための正確かつ確実な文献を入手していないが、今年（2007年）7月、インドのナグプールで愛知県一宮市の恵林寺住職関口道潤老師がインド在住の佐々井秀嶺長老に面談した際、佐々井長老は「今のブッダガヤの菩提樹は直接の子孫ではないのです。」と言明している（恵林寺住職関口道潤著「ナグプールに見る仏教の現実」）。このことは、はからずも1876年に先代のブッダガヤの菩提樹が枯れた後、「現在同地に生えている菩提樹は釈迦成道の菩提樹の直系の樹であるスリランカの菩提樹から分け樹が移植されたものではない。」ことを物語っている。佐々井長老は1967年8月に渡印して以来40年間一度も帰国することなくインドに滞在し、仏教の布教とヒンズー教徒の仏教徒への改宗運動に全精力とささげ、現在インド仏教徒の一大指導者になっている。また長い間ヒンズー教徒の管理下におかれてきた大菩提寺を仏教徒へ奪還する運動の先頭にたってきた方である。

また、ブッダガヤの菩提樹に関して、インド大菩提協会が2000年に発行した「Dharmadoot」の中に1903年7月発行の「Maha Bodhi Journal」の文章を引用しているのだが、その中で「When

this original tree was destroyed in the year 1874, a new plant grew in its place, and it is the sacred Bo-tree now extant at the shrine of Buddha Gaya. 初代の樹が1874年に枯れた時、その場所に一本の新しい樹が育った。それが今ブッダガヤの寺院にある聖なる菩提樹である。」との記述がある。この記述を素直に読めば、「先代の菩提樹が生えていた場所にその場所ないし、近くに生えていた新しい幼木が育った。」と考えるのが自然ではなかろうか。

## 6. 菩提樹贈呈式当時の現地ガイドの説明は正確か？

2003年7月、私達がインド大菩提協会サラナトセンターからの菩提樹贈呈式に参加するため、インドを訪問した時、現地ガイドからブッダガヤの菩提樹に関して次のような説明をうけた。

- 1) 初代のブッダガヤの菩提樹がアショーカ王妃の指図で切られ、枯れた。
- 2) その後スリランカからの苗木を移植した2代目の菩提樹が紀元前1世紀に枯れ、
- 3) その後に生えた3代目の菩提樹が紀元5世紀に枯れ、
- 4) その後に生えた4代目の菩提樹が紀元12世紀末～13世紀にイスラム教徒による仏教弾圧の際ブッダガヤの大塔とともに破壊された、と。

このガイドの説明の内、1)、4)に関しては、古代文献やその他の資料から確認または推測できるが、2)、3)の項目については現在のところこれを裏づける資料を入手していない。また、ガイドの説明には紀元7世紀はじめに起こったシャシャーンカ王の菩提樹伐採事件の説明がなかったのは意外である。いずれにしても12世紀末から13世紀初頭にイスラム教徒がインドに侵攻した後19世紀までの600年間菩提樹がどのような運命をたどったか不明である。

## 7. スリランカの菩提樹

インドにはその宗教的、哲学的思考に基づくのか、あるいは特異な自然の環境によるのか、

不思議なくらい古代の歴史書がない。そのため、インドの歴史を研究する人々は磨崖や石柱に刻まれた碑文、古代の貨幣や彫刻、あるいは中国僧・玄奘三蔵などの旅行記などをもとに研究している状態である。このことは仏教研究に関しても例外ではない。

そのかわり、インド国内にまつわる古代仏教史を隣国・スリランカの歴史書のなかにみることが出来る。スリランカの古代歴史書「マハー・ヴァンサ（大史）」がそれで、その内容はほとんど全てがインドとスリランカの古代仏教史である。この歴史書のなかにアショーカ王の時代にブッダガヤの菩提樹の分け樹がスリランカ王に贈呈されたことが記録されている。興味深い事実をこの歴史書にみてみよう。

アショーカ王は仏教に帰依した後、各地の磨崖や石柱に有名なアショーカ碑文を残すなど熱心に布教活動をしているが、スリランカにも息子（一説には西インドの高僧）マヒンダを派遣し、当時のスリランカのデーワナンピヤ・ティッサ王（紀元前260年～210年）を仏教に帰依させている。マヒンダは、菩提樹の分け樹を貰い受けることと、王の末弟の副王マハーナガの妃アヌラを出家させるため、アショーカ王の娘サンガミッタ妃をスリランカに招くことを王に進言している。

これらの要請を受けたアショーカ王がブッダガヤの菩提樹の南枝を採り、スリランカに送り出す際の模様を先の「マハー・ヴァンサ（大史）」の中には感慨をこめて、次のように記載されている。

『余は3度大菩提樹に王国を捧げて供養した。それと同じように余の友なる王もまた王国を捧げて供養するであろう。』と。これを言って大王は岸辺に合掌して立ち、去り行く大菩提樹を眺めて涙を浮かべた。『おゝ、かの十力者の大菩提樹は、光網を放ちながら去ってゆく、呼々。』と。大菩提樹に別れて、悲しみに充ちた法阿育（アショーカ）は嘆き悲しみ泣いて自分の都に帰った（第19章。）（平松友嗣訳注）と。

サンガミッタに先導された菩提樹はその後海路スリランカに運ばれ、スリランカの北の港・ダンバコラ（Dambakola）でデーワナンピヤ・

ティッサ王に渡され、その後当時の王都・アヌラーダプラに運ばれ植樹された。その樹（の末裔）はスリー・マハー菩提樹（Suri Maha Bodhi Tree）と呼ばれ、世界遺産に登録されている。

ところで、スリランカでは「この菩提樹は紀元前3世紀（紀元前288年という説もあるが、アショーカ王やデーワナンピヤ・ティッサ王の時代とずれがある）に移植された菩提樹が育ったもの」との説明をうけたが、樹の寿命を考えると、実際は何度か植え替えられたものであろう。今回、そう確信させる古文書の記録を見つけることができた。

法顕は玄奘三蔵が西域を訪ずれた7世紀（西暦629年から645年）より200年以上前の西暦399年から412年にかけてインドとスリランカを訪問し、最後の2年間（410年と411年）スリランカに滞在している。法顕は滞在中にこの菩提樹を見て、「高さがおよそ20丈もある。」と旅行記「法顕伝、第5章」の中で報告している。20丈といえば、約60メートルの高さの巨木であるが、私達がスリランカを訪問した2002年9月に見た菩提樹は細い幹が横に傾いた弱々しい樹であった（写真4）。

しかし、ブッダガヤの菩提樹が長い歴史のなかで、度々危害が加えられ、新たに植え継がれ、途中経過が不明な時期がある樹であるのにたいし、アヌラーダプラの菩提樹はブッダ（釈迦）成道の菩提樹の直系が植え継がれたものと考えられている。この樹の分け樹が、ブッダが



写真4. スリランカのアヌラーダプラにある「聖なる菩提樹」。沢山のささえ棒が立てられている斜めに傾いている弱々しい左側の樹がそれで、世界遺産に登録されている（2002年9月撮影）。

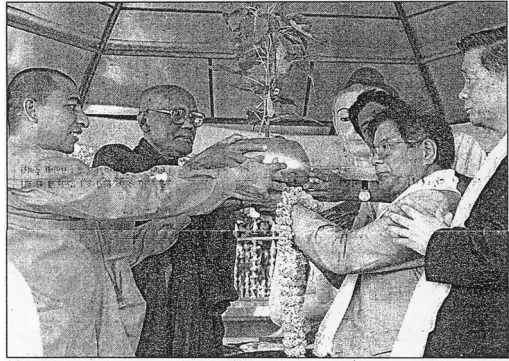
### अदालत ने देखी वीडियो फिल्म, रिपोटर का ब्यान दर्ज

चारणसी (सं.)। मौर्याट स्थित रमना मठ के संत रमन चैतन्य ब्रह्मचारी हत्याकांड के संबंध में रिकार्डिंग को गह बिडियोकैसेट शनिवार को चतुर्थ इलाक़ी न्यायालय के जायफ़ीया डी.एच.ए. में देखा। मगर, उसे कुछ सप्ताहों के लिए हत्याकांड से जुड़े

संज्ञित पंच के खिलाफ अदालत में आरोप पत्र प्रेषित किया। मुकदमे को पुनर्वाई इन दिनों चतुर्थ दुर्गापी न्यायालय को अदालत में चला रही है। अभियोक्तुन पक्ष की ओर से अब तक चतुर्थ प्रदाह परीक्षण किंग जा चुके हैं। छठे महीने के रूप में लगावार एजेंसी के रिपोटर को अदालत में पेश किया गया जिसने हत्याकांड से जुड़े कुछ तथ्यों को बिडियो कैमेरे से रिकार्डिंग किया था। उक्त बिडियो कैसेट के प्रदर्शन के साथ ही रिपोटर को भी बयान अदालत में दर्ज किया गया। फिर के लिये सोसायटी की निधि निगत की गई है। बिडियोकैसेट के प्रदर्शन के दौरान अदालत में तमाम अधिका व वादकारी मौजूद थे।

### ओकिनावा द्वीप पर लगेगा बोधि वृक्ष

सारनाथ (सं.)। महाबोधि सोसायटी ऑफ इण्डिया के तत्वावधान में आयोजित एक समारोह में शनिवार को सारनाथ में पवित्र बोधि वृक्ष की पौधा जापान की ओकिनावा शान्ति स्मारक को सोसायटी के सहायक महासचिव भिक्षु के. सिरी. सुमेध धैरे ने प्रदान किया। संस्था इस बोधि



सारनाथ के मूलगंध कुटी विहार में जापानी दल के डा. नागा माइने नोबोओ को बोधि वृक्ष सौंपते महाबोधि सोसायटी आफ इण्डिया के अध्यक्ष टी. महाधैरे।

प्रदान किया गया। पवित्र बोधिवृक्ष हस्तंतरण समारोह में मौलत हुए ओकिनावा शान्ति प्राचीन स्मारक के अध्यक्ष डा. नोबुआ नागाभिने ने कहा कि ओकिनावा का युद्ध क्षेत्र आज बहुत से शान्तिप्रिय लोगों का शरण-स्रोत बन गया है जो वहां आकर विश्व में विश्व शान्ति के लिए प्रार्थना करते

### बाट-माप विभाग के आतंक से दुकानदार त्रस्त

रोहिण्या (चारणसी) (सं.)। बाट-माप विभाग का आतंक क्षेत्र में खास आतंक है। दुकानदार इन कांति बोकनोली से परेशान हैं। कारण इस विभाग के लोग बांके के पास पर तिर्कि भन उमाठी ही कर रहे हैं। ऐसी ही एक घटना आज हुई मोहनरायप निगत कोटरा पुनवायोग को दुकान पर साहन सवार दो युवक पहुंचे उन्होंने दुकानदार को आवाज दिया जिस पर उनके पुत्र राजकमल गुला पहुंचे तो उनसे दुकान के कागजात व बाट मांग जाच किया जिससे सारे कागजात व बाट सही पाये गये इसके बावजूद जाते समय इन लोगों ने दुकानदार के पुत्र से धन की मांग की जिसे सुनकर दुकानदार आश्चर्य में पड़ गया और कहा कि जब हमारे सोरे बाट-माप सही है तब किस बात का धन कलक कर रहे हैं। फिर यह निगम अधिकारियों ने जाकर उसे रोका। मौलतव है कि आरामो ने 170, जिसके लक्ष श्रोत है, में 34.93 एकड़ भूमि है, वहाँ आरामो ने 275ए तथा 171

### अवैध कब्जे से न के लिए स्थलीय

सारनाथ (सं.)। सारनाथ स्थले स्टेशन के समीप नगर निगम को सारनाथ 50 एकड़ भूमि को अवैध कब्जे से मुक्त करने के दृष्टिगत शनिवार को नगर अवुक्त आर.पी.ओ.गोडा के निदेश पर स्थलीय सहायक का कार्य प्रारम्भ कर दिया गया। सर्वे कार्य का नेतृत्व सहायक नगर आवुक्त एजेश्वर सिंह कर रहे हैं।



写真6. 2007年6月23日慰霊の日の沖繩菩提樹苑。2006年にインドから持ち帰った沙羅双樹と無憂樹の苗木も展示している。沙羅双樹は沖繩では初公開。

### जापानी समिति के दल को सौंपा गया पौधा शान्तिप्रिय लोगों का प्रेरणा-स्रोत बना ओकिनावा

भारत-बुद्ध की प्रार्थना का हीर है कि आज संसार के लोग पूरे व में शान्ति व स्थिरता चाहते हैं के सहित बोधि वृक्ष को उसी न पर रोपित किया जाएगा। इस वृक्ष को भारत तथा जापान के, बिह्ल के रूप में भी वाद जा जाएगा। इस्लामत भागण में महाबोधि शायटी ऑफ इण्डिया के सहायक

सहायक महासचिव भिक्षु के. सिरी. सुमेध धैरे ने डा. नोबुआ नागाभिने को बोधिवृक्ष भेंट किया जिसे उन्होंने सर पर रखकर स्वीकार किया। इस अवसर पर 14 जापानी सदस्यों को भी समुचित विन्द भेंट किया गया। कार्यक्रम में सारनाथ स्थित विभिन्न बोधि प्रतिष्ठों के बौद्ध प्रभारी उपस्थित थे। कार्यक्रम का संचालन डा. बेनी माधव ने किया।

写真5. インド大菩薩協会による「聖なる菩提樹贈呈式」を報じたインドの新聞記事。

悟りを開いた後、初めて説法した仏教発祥（初転法輪）の地であるインドのサルナート（鹿野苑）に1931年ムラガンダ・クティ寺院が建立された際移植され、さらにサルナートの菩提樹の分け樹が2003年7月19日、2300年ぶりにインド大菩薩協会による公式の式典を経てインド国外である沖繩に贈呈されたのである（写真5、6）。（2007年11月記）

### 参考文献

1. 長嶺信夫：沖繩にきた聖なる菩提樹の歴史、沖繩県医師会報、Vol.39、No.10～11、2003年  
2. 長嶺信夫：聖なる菩提樹贈呈の経緯とその記録、沖繩県医師会報、Vol.39、No.12、2003年  
3. 長嶺信夫：ブッダゆかりの「聖なる菩提樹」、沖繩県医師会報、Vol.39、No4～5、2003年

4. 長嶺信夫：下着と一緒に入れないでください\*菩提樹騒動記\*\*、沖繩県医師会報、Vol.41、No.4、2005年  
5. 長嶺信夫：腹を切らずにすんだ話～さまよい歩いた聖なる菩提樹～、沖繩県医師会報、Vol.41、No.7、2005年  
6. 小西・岩瀬編：図説インド歴史散歩、河出書房新社、1995年  
7. 玄奘著 水谷真成訳注：大唐西域記、第8巻、平凡社、1999年  
8. 法顕著 長沢和俊訳注：法顕伝・宋雲行紀、平凡社、1997年  
9. 平松友嗣訳注：マハー・ヴァンサ（大史）、富山房、1990年  
10. A.Cunningham：MahaBodhi orThe great buddist temple under the Bodhi tree at Buddhagaya,London, 1892、(Indological Book House 版)  
11. T.C.マジュプリア著 西岡直樹訳：ネパール・インドの聖なる植物、八坂書房、1996年  
12. 中村元編著：新編ブッダの世界、学研、2000年  
13. 関口道潤：沸跡巡拝続編 ナグプールに見る仏教の現実、恵林寺、非売品、2007年  
14. Maha Bodhi society of India編：The Sacred Bodhi Tree in Sarnath “The Tree of Enlightenment” Dharmadoot 2000年